

茶病虫害防除情報

【第 1 号】

令和 7 年 5 月 2 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

第 1 世代クワシロカイガラムシの防除対策

クワシロカイガラムシ第 1 世代ふ化時期になりましたので、防除情報についてお知らせします。近年、県内茶園でのクワシロカイガラムシの発生が少なく、現地調査が難しくなっておりますが、4 月中下旬行った県内巡回調査結果と県病虫害防除所の有効積算温度による防除適期予測値を基本にし、さらに過去の防除適期データなどを参考にして、地域の防除適期を予測しました。

◎ クワシロカイガラムシの発生概要・・・発生量は「少」 発生時期は「遅い」

最近の発生は比較的に少ない状態が続いています。昨年秋の第 3 世代発生も少ない状況でした。県病虫害防除所の令和 6 年 10 月の発生状況調査データでは、発生ほ場率は 20%（平年 41%）、寄生株率 4.0%（平年 29.0%）でした。そのため、第 1 世代の発生量は「少」と予想しています。さらに、一部調査園の産卵・ふ化状況調査結果および有効積算温度による予測で防除適期のふ化最盛期は、2～3 月の気温が低く推移したため茶芽生育と同様に、発生時期は「遅い」予測としています。

◎基本的な薬剤防除対策

摘採や栽培管理のなかで、発生状況を確認しておきましょう。防除は発生が比較的揃いやすいこの世代に行くと効果的です。発生の多い園ではこの時期に防除しましょう。なお、越冬成虫休眠期のプルート MC による防除を実施した園では防除は不要です。

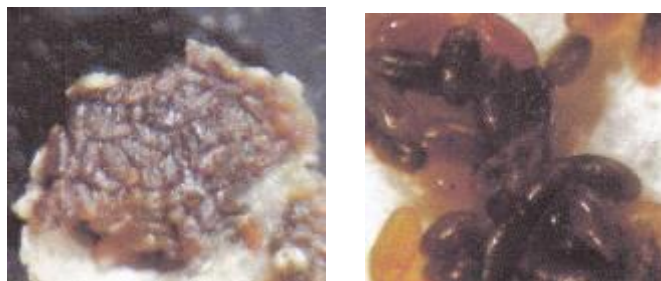
幼虫ふ化最盛期は平年より遅く、**早場産地 5 月 1～2 半旬、中間産地が 5 月 3～4 半旬、遅場産地が 5 月 5～6 半旬と予測されます。**しかし同じ地域でも茶園により発生が微妙に異なりますので、できれば圃場ごとに産卵・幼虫ふ化状況を調べて防除を行いましょう。防除適期はふ化最盛期から 5 日後位までです。また、チャトゲコナジラミの発生時期と概ね重なりますので、両害虫の発生園ではアプロードエースフロアブルによる同時防除が可能です。薬液が枝条によくかかるように成木園では 10a 当り 1000 L、幼木園では 600 L 程度散布しましょう。多発生園は中切りして防除すると効果的です。発生程度が低い園では、周辺部のみの額縁防除でもよいと思われます。

表 1 クワシロカイガラムシ薬剤防除法

病虫害名	主な薬剤名	希釈倍数	使用基準	使用上の留意事項
クワシロカイガラムシ	アプロードエースフロアブル	1000 倍	14 日 2 回	ふ化最盛期から概ね 5 日以内に散布する。

◎ 耕種的防除法

畑かん地区での散水防除法は、産卵末期頃から幼虫ふ化定着期まで約 2 週間、日中のみ間断散水（10 分散水、20 分無散水）します。



散水防除法で死滅したクワシロカイガラムシ卵塊（宮崎茶業支場提供）

産地別のクワシロカイガラムシ防除適期（ふ化最盛期～5 日）の目安

時期	産地名	防除適期
早場産地	枕崎市鹿籠、志布志市志布志、志布志市有明原田、鹿屋市高須・浜田 枕崎市中原・茅野、南九州市知覧南部、南九州市穎娃中南部、 志布志有明野神、鹿屋市東原、錦江町大根占、南さつま市金峰 等	5 月 1－2 半旬
中間産地	南九州市知覧中部、南九州市川辺、南九州市穎娃谷場・瀬谷・北部、 南さつま市東山、志布志市有明風八重・野井倉、出水市平和、 南九州市知覧中北部、旧茶業部、日置市伊集院・東市来、 鹿児島市松元、志布志市有明伊崎田、曾於市大隅・末吉 等	5 月 2－3 半旬
遅場産地	薩摩川内市入来・樋脇、さつま町、霧島市溝辺、曾於市財部、 南九州市知覧後岳、南九州市川辺清水、南さつま市鐵山、 霧島市牧園万膳・三体堂、湧水町栗野、伊佐市 等	5 月 3－4 半旬

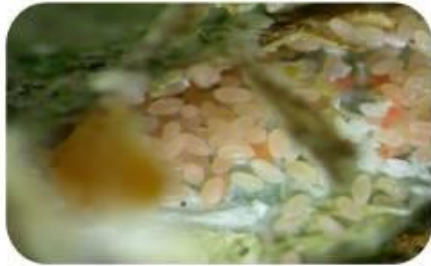
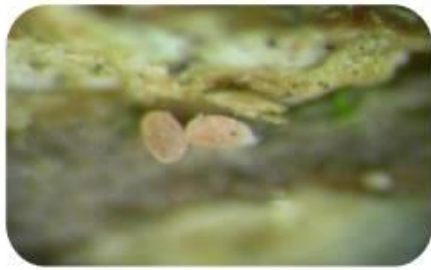
☆ 防除適期は同じ産地でもほ場によって異なることがあります。このためこの情報は大きな目安とし、正確な防除適期は JA の茶営農指導員や地域振興局などに調べてもらいましょう。



クワシロカイガラムシ発生状況

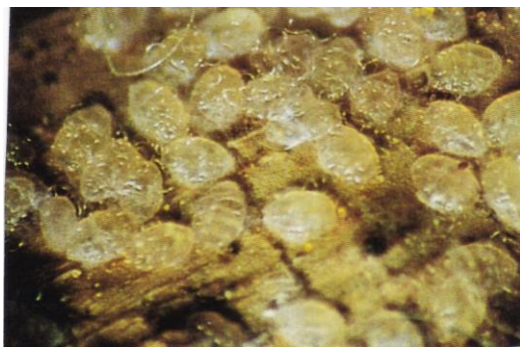


雌成虫寄生状況を確認する



産卵 幼虫ふ化状況

卵の 7～8 割がふ化した時期(ふ化最盛期)から 5 日後頃までが防除適期



定着期：防除はこの時期まで

綿状ロウ物質で覆われてくると防除効果が低くなる